

ご 祝 辞

「10周年記念誌より抜粋」

ながおか医療生活協同組合創立10周年を

心からお祝い申し上げます

新潟県生活協同組合連合会
会長理事 渋谷 昭彦

ながおか医療生活協同組合創立10周年を心からお祝い申し上げます。

貴組合に於かれましては、平成6年11月の創立以来、変動する社会情勢に対応しつつ着実な発展を遂げられ、今日では組合員5,000人を有する組織に発展されました。この10年間常に組合員の視点に立ち、医療・介護事業の充実と安定を目指す医療生協として発展されましたのも、ひとえに役職員並びに組合員の皆様の熱意とご努力の賜物と心から敬意を表します。

昨年の10.23新潟県中越大震災では、電気、ガス、水道などライフラインがストップし、多くの市民が不安を抱く中で緊急医療をはじめ、被災者支援活動に大きな力を発揮されました。また、全国からの支援受入窓口、ボランティアセンターとしても機能し、避難所訪問や被災者訪問活動などにも全力をあげられた事は高く評価される所であります。県生協連としても長い間の課題でありました「災害時における応急生活物資供給等に関する基本協定」並びに確認書を7月27日に新潟県と締結しました。緊急時こそ「人」と「人」とのつながり、助け合う心が大切ではないかと考えます。

さて、日本経済は順調に回復しているとは言えるものの消費者の生活は二極分化しており、必ずしも私たちの生活が向上しているとはいえない状況です。今後、少子高齢化を迎える中、年金、医療、介護問題や消費税、所得税を含む税財政問題など山積しており、私たちの生命と健康、暮らしが一層不安定になることが予想されます。

2006年度は介護保険見直しと診療報酬改訂が予定されており、医療、介護をめぐる情勢は大きな転機を迎える事になります。そして、一般病床の削減、包括医療の推進など国の財政支出削減を基本とした政策が進められていくものと思われます。

このような時こそ、過度に公助に依存することなく、また、自助に転嫁するのではなく、助け合いの精神を基本とする共助のシステムを強化することが必要だと思います。これが生協への期待だと考えます。その運動の先頭にたってこられたのが、「ながおか医療生協」の皆さんである事は言うまでもありません。

創立10周年を契機に、こうした歴史を礎として貴組合がますます発展されますことを心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

ながおか医療生協 10 周年おめでとうございます

新潟県民主医療機関連合会

会長 五十嵐 修

ながおか医療生協 10 周年、おめでとうございます。

1994 年 9 月「ながおか医療生活協同組合」創立総会が行われ、その前後足掛け 2 年ほどの準備を経て、95 年 5 月にながおか生協診療所が開設されました。当初、県は設立形態について「なぜ、医療生協なのか」と疑問（苦言？）をぶつけてきたといえます。それに対して、羽賀理事長はじめみなさんは「ひとりひとりの力を持ちよって話し合い、知恵を出し合い、患者さんの立場に立った医療をめざす」（羽賀先生の総代会あいさつ）ということであくまでも医療生協法人を追求されました。いくらか時間はかかりましたが 95 年 11 月にめでたく「認可」となりました。出発時から運動のスタイルがみなさんの中にしっかりとイメージされており、それを大切にしてきたことが、たとえば昨年の中越地震直後の対応で大きな団結力を示したように、現在の幅広い活動や事業展開の実現に繋がっているのではないかと改めて感じ入っております。

10 年ひと昔と言いますが、中越地震や水害は言うまでもなく、みなさんには本当にいろいろなご苦労があったと思います。生協診療所が開設された 1995 年は、1 月に阪神淡路大震災があり、3 月は地下鉄サリン事件があった大変な年でした。政治では自民・社会・さきがけの三党が連立した村山内閣の時代でした。全国の高齢者世帯が全世帯の 13%以上となり、一人暮らしのお年寄りが 211 万人（94 年国民生活基礎調査）とあります。それが 10 年を経て、高齢者世帯は 17%うち一人暮らしのお年寄りは 373 万人（2004 年）と増えています。2000 年度に施行された介護保険は、高齢化が進むからこそ充実・向上させるべきと思うのですが、小泉内閣は「構造改革」「新自由主義」政策のもとで今年 10 月に改悪しました。居住費や食費などの自己負担を増やし、お金がなければ十分なサービスを受けられないものにしました。保険料を徴収されながら自己負担の「利用料」が払えないと必要なサービスを受けられない。「介護の社会化」からはほど遠い状況です。

もうひとつ、労働をめぐる、10 年前は完全失業率が 3.2%で悪化傾向にあり、日本型雇用制度の見直しが言われ「労働力の流動化を促進する」と日経連は打ち出しました。その結果、完全失業率は長い間 5%を超え（2004 年は平均で 4.7%とのこと）特に若者世代で失業率が高い状態となっています。今は就労者であっても賃金水準が悪化しているために「ワーキングプア」と呼ばれる生活困難が急増しています。このままでは、若者が結婚する条件も子どもを生み育てる環境もどんどん失われていき、日本ではごく一部の金持ち階層と多くの貧しい人たちという「階層格差」が進んでいくと、ある学者は指摘しています。（日野秀逸編『市場化の中の医療改革』）

こうした厳しい変化の時代に、みなさんはいち早く『21 世紀構想』をかかげ、医療と福祉の総合的な展開、安心のネットワークの形成を強く打ち出し、「ひとりひとりの力を持ちよる」仲間づくりと事業所建設を進めてきました。ながおか医療生協には、現在 5000 人を超える組合員さんが結集されており、居宅介護支援事業や居宅サービス事業、グループホーム、さらに長岡市からの受託事業などに対応する、地域で大きな信頼と影響力を持つ立派な組織になっておられます。「階層格差」が拡大する時代だからこそ、みなさんの生協活動が「患者さんの立場に立った医療」や介護の実践をさらに推し進め、「住みよいまちづくり」に大きく貢献されることを信じて、私のあいさつといたします。